



福島区の 都市景観資源紹介

福島区の 都市景観資源紹介

大阪市では、福島区の都市景観資源の発掘のため、福島区未来わがまち会議との連携により「わがまち自慢の景観」を募集し、大阪市都市景観委員会の審議を経て、平成24年3月30日に14件を都市景観資源に登録しました。

1. 海老江地区の樹齢200年のクスノキ



- 所在地 大阪市福島区海老江3丁目4番20号
- 登録年月日 平成24年3月30日
- 概要 海老江地区は戦災を免れたため今も古い家屋が残っている。その中で、昔この道路が川だったところから生えている樹齢200年の大きなクスノキは、非常に存在感があり、古き良き福島区の景観を作り出している。

2. 海老江八坂神社



- 所在地 大阪市福島区海老江6丁目4番2号
- 登録年月日 平成24年3月30日
- 概要 境内に天治(1120年代)の年号が刻まれた石灯籠があり、相当古い神社である。その昔は、牛頭天王社(ごすてんのうしゅ)と呼ばれていたが、明治の初め八坂神社に改称された。この辺りは元々河口の砂洲で干拓により村ができ、鎮守社として創建されたものと思われる。毎年12月に古式そのままに、非公開で行われている宮座神事が大阪府無形文化財に指定されている。毎年夏祭りには地車3基、枕太鼓1基の巡行が行われ夏の風物詩のひとつになっている。

しょうてんりょうとくいん 3. 聖天了徳院



- 所在地 大阪市福島区鷺洲2丁目14番1号
- 登録年月日 平成24年3月30日
- 概要 聖天さんの参道は、聖天通り商店街として江戸時代から栄えていたといわれる。今も住民の憩いの中心的寺院である。真言宗東寺派の寺院で歓喜天を祀っている。古くから「浦江の聖天さん」と呼ばれて親しまれ、大変賑わったところである。また、境内の桜・藤・杜若などが目を楽しませているとともに、丸角流の山門は大阪府の文化財に指定されている。

かすがじんじゃ のだふじはっしょうち 4. 春日神社 (野田藤発祥の地)



- 所在地 大阪市福島区玉川2丁目2番7号
- 登録年月日 平成24年3月30日
- 概要 春日神社は、新なにわ筋、玉川南公園の東、緑の玉垣に囲まれた小さな祠。野田村の庄屋であった藤家の氏神として祭られ、往時は広大な境内に大木に絡まりフジが一面に咲いていた。室町幕府二代将軍・足利義詮や豊臣秀吉もフジ見物に訪れたと伝わる。江戸時代は「藤之宮」とよばれ、この地のフジは「野田藤」の名で全国的に知られるようになった。祭神は天児屋根命・天照大神・宇賀御魂神である。その創建は藤原氏の分流、藤原藤足が、この地に移住して、その祖神春日明神を勧請したと、藤家に伝わる『藤伝記』にある。

のたえびすじんじゃ 5. 野田恵美須神社



- 所在地 大阪市福島区玉川4丁目1番1号
- 登録年月日 平成24年3月30日
- 概要 野田恵美須神社は「野田のえべっさん」で親しまれている。いつごろ創建されたのかは不明であるが、境内にある御影石に永久3年(1115年)と刻まれていることから、その頃と推測される。古来から「恵美須の大神」は漁業の神として祀られており、当時このあたりは難波八十島(なにわやししま)と呼ばれ、漁業中心の地域だった。毎年1月の十日戎には多くの参拝者で賑わい、夏祭りには地車・太鼓・鯛鉾の巡行が行われるなど、地元の氏神として信仰を集めている。